



完成パース (パロパカール病院) (出典: JICA)



完成パース (ビル病院) (出典: JICA)



世界で活躍する日本の建設企業

# 地震復旧・復興計画 パロパカール産婦人科病院 及びビル病院再建計画



株式会社安藤・間 本社国際事業本部 建築部 パロパカール病院・ビル病院作業所 所長

## 小野正貴

Masaki Ono

### ネパール連邦民主共和国の紹介

ネパール連邦民主共和国は東、西、南の三方をインドに、北方を中国チベット自治区に接する内陸国である。国土は北部にエベレスト（ネパール語でサガルマータ）を含むヒマラヤ連山がそびえ、南部にはタライ平原が広がり、ヒマラヤ登山の玄関口としての役割を果たしている。面積は約一四・七万平方キロメートル（北海道の約一・八倍）。人口は二、八九八万人（二〇一六年、世界銀行）の多民族国家であり、民族とカーストが複雑に関係し合っている。また、宗教もヒンドゥー教、仏教、イスラム教他が混在する。

### プロジェクトの紹介

二〇一五年四月二十五日、首都カトマンズ北



地震発生時 (パロパカール病院)



地震発生時 (ビル病院)



倒壊したホテル (カトマンズ)

西約八〇キロメートル（ゴルカ郡）を震源とするマグニチュード七・八の地震が発生し、またその後も五月十二日にマグニチュード七・三の余震が発生した。本震および余震により、死者が八、七〇二人、負傷者二二、三〇三人、全壊家屋約四九八、八五二戸、半壊家屋約二五六、六九七戸の被害が出るなど、激甚災害となった。当プロジェクトは、大地震で被災したカトマンズ市内の二公立病院の再建プロジェクトである。パロパカール産婦人科病院は一九五九年に設立され、カトマンズ盆地のみならず、ネパール全土からの妊産婦を受け入れているネパールを代表する産婦人科病院である。国立ビル病院は一八八九年に設立され、四棟ある病棟のうち、唯一全壊判定を受けた築約五〇年の第三病棟の再建である。両病院ともネパールにおけるトッ

プレファラル病院（最高次レベルの医療サービスを提供する病院）であり、災害時の拠点病院となることが想定されている。

### 工事概要

震災前は産科と婦人科、分娩室や新生児集中治療室が混在する一方で分娩室や手術室が別棟

に分散していた施設を機能集約し、産科部門と教育部門に特化した機能的な建物として計画されたパロパカール病院（約五、四〇〇平方メートル）と各階ごとに検査・処置機能等と病棟が一体となり臓器別にセンター化された建物として計画されたビル病院（約三、一〇〇平方メートル）の建築に加え、医療機器の調達、据付けおよびオペレーション教育を含んだ契約内容となっている。また、施設整備方針として、地震に対する耐力性能が高く、災害時にも稼働し続けられるよう非常用発電機や無停電電源装置、貯水タンクを装備していることが特徴である。

### 終わりに

二〇一五年九月の新憲法公布を巡って各政党の勢力争いが激化し、首相がたびたび交代する事態となる等の政治の混乱もあり、すでに地震発生からおよそ三年半が経過したが、未だ国土復興は道半ばである。ネパール同様、多くの地震に見舞われながらもそれを乗り越えて復興を成し遂げてきた日本の一企業として、今回、当プロジェクトに参画していることに大きな意義を感じる。今まで蓄積してきた知見を活かし、当プロジェクトが震災復興の本格的な足掛かりとなるべく、一日も早いプロジェクトの完成を目指し、ネパール震災復興の一助になりたい。